

— 使徒言行録1章・1-11、ヘブライ9章24-28、10・19-23、ルカ24章・46-53—

(そのとき、イエスは弟子たちに言われた。「聖書には)次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる』と。エルサレムから始めてあなたがたはこれらのことの証人となる。わたしは、父が約束されたものをあなたがたに送る。高い所からの力に覆われるまでは、都にとどまっていなさい。」イエスは、そこから彼らをベタニアの辺りまで連れて行き、手を上げて祝福された。そして、祝福しながら彼らを離れ、天に上げられた。彼らはイエスを伏し拝んだ後、大喜びでエルサレムに帰り、絶えず神殿の境内にいて、神をほめたたえていた。—ルカ24章—

わたしのエルサレム

十字架上の主の死を見て、恐怖に襲われた弟子たちは、主の復活を信じていることをためらっていませんでしたが、主が真に復活したことを、40日に亘って明らかに見て、大いに強められました。そして、主が、天の高みに昇って行かれるのを見た時、彼らは悲しむことなく大きな喜びに満たされました。それは、御子において、人間の本性が、永遠の御父の栄光に共に預からせていただけるといふ、私たちの未来の姿を示して高く高く昇っていかれたからです。

天に帰って行かれるとき主は、地上に残した使徒たちを、孤児の状態にはしないで、ご自身に代る聖霊を予告され、聖霊によって使徒たちが、御自身に代ってこの世で宣教活動を始められるようにされたのです。聖霊は、御心が地でも行われるように、私たちに神の心を教えて、私たちの宣教の導き手となつてくださる神です。かつて、イエスと共にいて、弟子たちがイエスから力を得たように、これから私たちは、聖霊から力を得て、イエスが残して逝かれた福音を世に継続していくために、「聖霊の弟子」になる必要があります。宣教は、神、聖霊の業だからです。聖霊の弟子となつて、聖霊が私たちの中で自由に力を発揮できるように、私たちは「自分の思い」を明け渡さなければなりません。早る心で、自分の思いを先行し、聖霊によらない活動をしなないためです。それは、自分の欲望の実現であり、「世が与える平和」に過ぎないからです。

聖霊に派遣されるためには、まず、自分の無力さを知り、『自分の思い』を控えること、そのために、自分の望む場ではなく、イエスは「エルサレムを離れないで」と弟子たちを戒めて「聖霊降臨の場」を示されました。

「エルサレム」とは、イエスの受難の場です。イエスはこの受難を通して復活されたのですから、私たちも、受難を厭い、それを避けて安全な場で待つのではなく、自分自身の十字架、すなわち、受難の場において、空の器になつて聖霊を迎えるのです。十字架に立ち会ったマリアさまと共に、「私のエルサレム」で。

2022年5月29日
主任司祭 昌川 信雄

